



きばっちょいもんさ

—鹿児島企業の顔・心—

「あるべき姿」を求めて

岩崎産業株式会社 木材建設工業部長 橋口 信幸

私共、木材建設工業部は、鉄道の枕木から始まり、その木材保存（防腐処理）技術を通して、木柱（電柱）、住宅用土台、エクステリア（公園遊具、ボードデッキ、景観施設等）へ展開を図り、また本県の代表的広葉樹イタジ材（ブナ材）の利用拡大のために製材工場、チップ工場、集成材工場を建設し、「奄美クリ」の名称で全国販売を行い、また、しろあり薬剤の製造、プレカット工場建設、併せて木材、建材等の輸入も進めて参りました。

その中で私は当木材部へ昭和55年に入社後、イタジ材の開発に携わることとなり、旧木材工業試験場の技術指導に支えられながら商品化を進めることができました。思えば入社以来18年余りずっとお世話になっていることとなります。その後、急激な円高の煽りを受け、製造が衰退化する中で、東南アジアを中心に現地での製造や商品の輸入に着手し、一見、ますますの拡大基調に思えました。しかし、実はここから、混迷が始まりました。パプルの崩壊です。

長い試行錯誤が始まりました。私共の進む方向「あるべき姿」は少し違うのではないかということです。岩崎グループは基本方針として「マルチローカルエンタープライズ」を標榜しております。これは地域と共に繁栄すること。地域への密着と同化へ努力することを意味しております。この言葉と木材部の「あるべき姿」の整合性について悩みました。しかしながら現在は自分なりの答えは出ています。地域の木材への付加価値、すなわち製造を基軸として、その利用、開発に着手し、地域と共存共栄を図るということです。ここ2、3年は製造と販売体制の根本的見直し作業に着手することになり、岩崎産業は何をやっているのかというお叱りも受け、何かとご迷惑をおかけしていることと申し訳なく思っています。とは言え目

指す方向が見えてきますと弾みもついて参ります。新しい木材部の建設に向け、全員一丸となって奮闘中でございます。

今、木材業界には様々の問題が横たわっております。地球の温暖化と熱帯雨林の保護、しろあり薬剤、木材保存剤による環境負荷の低減、ホルムアルデヒド等によるシックハウス症候群、伐採期を迎えたスギ材の利用、建築基準法の大改訂、また需要の収縮と流通の大きな変化等、枚挙にいとまがありません。どれひとつとっても大変な問題ではありますが木材を扱う以上避けて通れません。しかし、これらの問題も原理原則を押えながらひとつずつ「あるべき姿」を具体化していくことで答えは出せると信じております。

最後になりましたが、貴センターのご発展をお祈りし、今後共、力強いご指導を賜ります様お願い申し上げます。

【プロフィール】

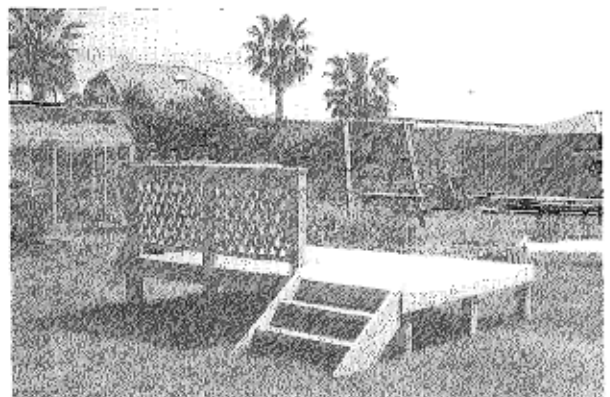
生年月日：昭和26年7月25日

出身地：宮之城町

血液型：AB型

好きな言葉：諸行無常

趣味：確率



自分で創れるホームデッキ